

あいち病害虫情報 最新情報

平成 22 年 9 月 15 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

トビロウンカ 12年ぶり大発生（9月13日注意報発表）

トビロウンカによる坪枯れが東三河地域を中心に発生しています。9月14日までに坪枯れが発生しているほ場を50か所以上確認しました。現在被害が確認できないほ場でも、収穫までに期間がある作型では今後坪枯れが発生する恐れがあります。特に、過去に坪枯れが発生したほ場では注意が必要です。トビロウンカによる坪枯れの被害は急激に進行します。ほ場をよく観察し、部分的に色あせて見える（主に円形）場合はトビロウンカが寄生している可能性があるため、その部分の株元における本種の発生状況を確認し、寄生が認められた場合は直ちに防除しましょう。

また、坪枯れが発生しているほ場の周辺でも、トビロウンカが発生している可能性が高いため、早急に防除しましょう。

粉剤や液剤を使用して防除する場合は、株元に薬剤が十分かかるように散布しましょう。粒剤を使用する場合は水田を湛水して散布してください。なお、防除の際は薬剤の収穫前日数等を確認するなど、農薬の使用基準を厳守してください。また、収穫期近くになって坪枯れの初期症状を確認した場合は、できるだけ早く刈り取るように心がけましょう。

落葉果樹の病害虫

モモせん孔細菌病やナシ黒星病、ナシうどんこ病が多発しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋季防除を徹底しましょう。

カキうどんこ病が多発しているほ場では、早期落葉と次作の伝染源を減らすため防除を実施しましょう。

現在、フェロモントラップにおけるチャバナアオカメムシの誘殺数は少ない状況です。新世代成虫の発生量は少ないため、果樹園への飛来は少ないと思われます。しかし、台風通過後は風に流されて一部のほ場に集中飛来することがあるので注意しましょう。

ダイズ、野菜類、花き類の鱗翅目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が、平年よりやや多い地域があります。卵塊や若齢幼虫が多く認められた場合、幼虫の分散前に防除を実施しましょう。防除対策等については、9月1日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

ハイマダラノメイガのほ場での発生量は平年並ですが、今後、少雨高温傾向が続くと発生が増加する可能性があります。これから、は種、定植するほ場では特に注意しましょう。

コナガのほ場での発生量は現在のところ平年並の状況です。

9月上旬のオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、キャベツほ場では平年並ですが、キクほ場で平年より多く推移しています。キクでは、頂芽部の奇形や花蕾に食入痕が見られる場合は早急に防除しましょう。キャベツでは、結球内部に食入すると防除が困難になるので、若齢幼虫の発生を確認したら防除を実施しましょう。なお、防除対策等については、9月1日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害とも気温が高いと発生が助長されるので、今後の発生に注意が必要です。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにしましょう。また、本ほ場で発生を確認したら速やかにほ場から持ち出し適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病に注意

生育初期に感染すると被害が大きくなるので、発病株は見つけ次第抜き取るとともに、タバココナジラミの早期防除、栽培施設内への侵入防止に努めましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820